

中間案からの変更点等

- ・未来ビジョンの構成
- ・委員意見を踏まえた中間案からの変更点
- ・未来ビジョン策定後

未来ビジョンの構成

R5.8.4開催 第6回協議会内容の振り返り

青葉通駅前エリアの将来ビジョン構成案は次ページのとおり

【留意点など】

- ①「将来ビジョン」は決まりきった形はなく、構成は決まっているものではない
- ②沿道開発との連携を見据えながら検討
⇒皆さんの意見を尊重しながら構成を検討
- ③広場化、車線削減等の形状に関することはビジョンに盛り込まない
- ④理念、ビジョン策定後のビジョン実現に向けた行動指針（アクション）、ロードマップ、推進体制等を盛り込む

将来ビジョンの構成と他都市事例

	青葉通駅前エリアの 将来ビジョン (構成案)	定禅寺通エリアまちづ くりビジョン2030	御堂筋将来ビジョン (大阪市)	自由が丘未来ビジョン (東京都目黒区)	柏の葉ウォークアブル デザインガイドライン (千葉県柏市)	ひろさき、このさき、 VISION BOOK 2050 (弘前市)
策定主体	青葉通駅前エリアの あり方検討協議会	定禅寺通活性化 検討会	大阪市	自由が丘エリア プラットフォーム	柏の葉アーバン デザインセンター	中土手町まちづくり 協議会 (文化交流エリア周辺地 域エリアプラットフォーム)
エリア指定・対象エリア	○	● 区域線を示さず 大まかなエリアを提示	● 広域図を提示 (具体的なエリアは 未記載)	● 対象区域を 明確に線引き	△ 駅周辺エリアを対象 (エリア内の歩行者ルート を設定)	● 区域線を示さず エリアの鳥瞰図を掲載
理念・基本方針	○	●	●	●	●	△ 項目出しはないが、 目的等で記述あり
将来形(将来イメージ) キービジュアル	×	● エリア毎の ショットパース	● 鳥瞰パース	● 方針・エリア毎の ショットパース	×	● エリア毎の ショットパース
アクション (行動指針・取組)	○	●	●	●	●	●
ロードマップ	○	●	● 時期の記載なし	×	×	●
推進体制(関係図)	○	●	●	●	×	●
策定後も内容の更新を 続けていくもの	○	×	×	●	×	●

将来ビジョンの構成は、策定主体や地域によってそれぞれ異なる

委員意見を踏まえた中間案からの変更点

中間案に関する意見とりまとめの結果

- ・ 回答者数 委員29名中22名
※第9回協議会当日に発言された方を含む
- ・ 次ページ以降に示すご意見には、
アンケート＋第9回協議会当日の意見交換内容です

<全体に関する主なご意見>

・各ポイントについては概ね理解。全体感として、各ポイントがどのように繋がっているかの説明があるとよい。特に、ビジョンと方向性がどのように関係・関連してくるのか



<最終案>

・構成につながりを持たせ、順を追って理解できる流れにしています

- ① はじめに・未来ビジョンとは
 - ② エリアの変遷(写真)
 - ③ エリアの位置
 - ④ エリアと周辺エリアの特性
 - ⑤ エリアの果たすべき役割
 - ⑥ 未来ビジョンの概念図・フレーズ説明
 - ⑦ イラスト(エリアにヒューマニティが生まれる光景)
 - ⑧ ビジョン実現に向けて
 - ⑨ エリアの未来を考える座談会
- (最終案 P.16～P.43参照)

○ 主体

<中間案>

誰が、誰と共有、共創するものか？

青葉通駅前エリアのあり方検討協議会が作成、共有し、
このエリアに関わる関係者と共有、共創する

<アンケート結果>

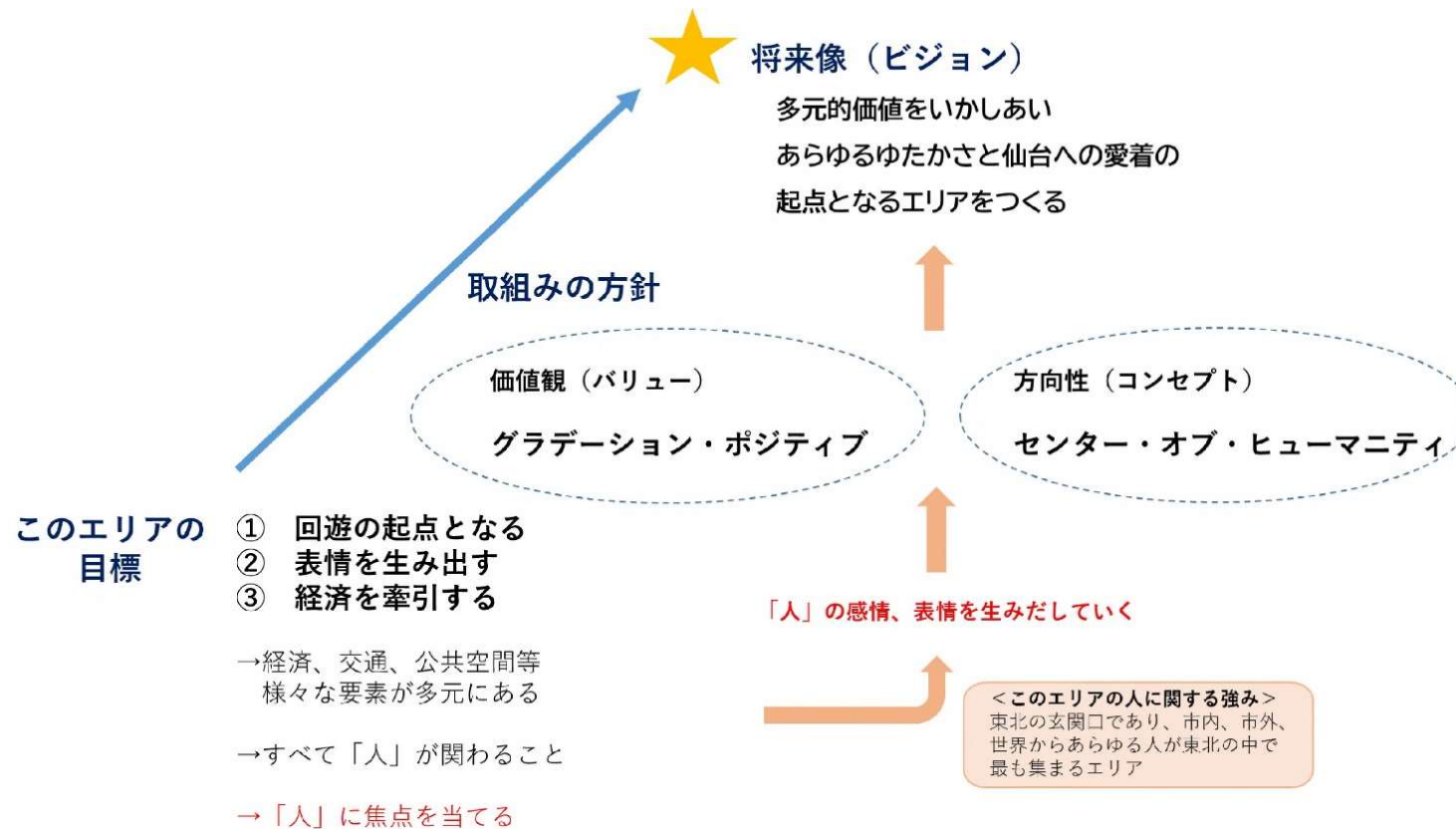
- ・79%が「理解できた、概ね理解できた」



<最終案>

- ・ 導入ページであるp. 5の「未来ビジョンとは」に反映

○ 概要 <中間案>



○ 概要

<最終案>

未来ビジョンの概念図

Diagram of our vision.

これまでに示した特性や役割を踏まえ、
青葉通仙台駅前エリアのビジョンを掲げます。

土台となる2つの背景

1. 「多元的価値」のあるエリアの特性

- 特性1) 仙台を印象付ける、まちなかや青葉山につながる「仙台の顔」
- 特性2) 交通・経済・文化といった要素の異なる価値が共存
- 特性3) 様々な人が行き交う

2. このエリアが果たすべき3つの役割

- 役割1) 「ひと中心」のゆたかな表情を生み、仙台の印象を創り出す
- 役割2) 訪れる人が他エリアへ回遊できる起点となる
- 役割3) 様々な人が多元的価値をいかして挑戦できる場となる

未来ビジョンの基盤となる思想

エリアの特性をいかし、役割を果たすためには、単なる空間整備や機能配置だけでは不十分です。様々な人が集まり、異なる価値が共存するこのエリアでは、それらをどのように調和させ、相乗効果を生み出していきたいのか、基盤となる思想が必要です。

また、従来のエリアづくりでは、経済効率や利便性が重視され、ひとの感情や体験、つながりといった人間本来の豊かさが置き去りにされがちでした。このエリアのように様々な人が行き交う場所では、ひとの心理や行動に配慮したエリアづくりが不可欠です。

従って、このエリアで大切にしたい2つのこととして、多様な価値を前向きに融合させる「グラデーション・ポジティブの心構え」と、人々の感情やつながりといった「ヒューマニティを大切にしたい考え方」を掲げ、未来ビジョンの実現を目指します。

このエリアで大切にしたい2つのこと

その1.

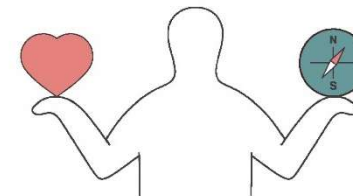
グラデーション・ポジティブの心構え

異なる価値が共存する多元的価値や変化に対して寛容さと柔軟さを持ち、いかしあうことで新たな価値を生み出せるよう前向きに挑戦しようとする心構え

その2.

ヒューマニティを大切にしたい考え方

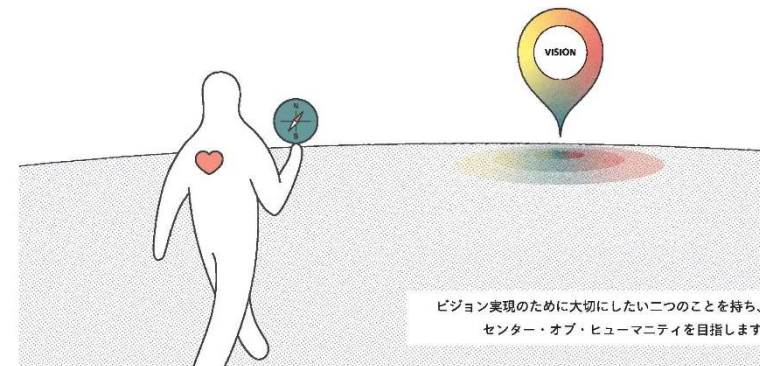
ひとの感情、人間性、ひととのつながり、すなわちヒューマニティを大切にしたいという考え方



ビジョン

センター・オブ・ヒューマニティ

あらゆるゆたかさが生まれ、仙台への愛着の起点となる唯一無二の場所



ビジョン実現のために大切にしたい2つのことを持ち、
センター・オブ・ヒューマニティを目指します

(最終案 P.24、25 参照)

○ 価値観 <中間案>

Value

グラデーション・ポジティブ

Gradation-Positive

青葉通仙台駅前エリアは、ルーツや年齢、エリアを利用する時間帯や訪れる目的が異なるひとが集まっています。

交通網、商業施設、公共空間は、時代の変遷と共に変化しています。

ビジョンで描くエリアを実現するために

こうしたひとの違いや場の変化などのグラデーションに寛容になり、いかしあうことに前向きに挑戦する姿勢を大切にしていきます。

<アンケート結果>

- ・ 87%が「理解できた、概ね理解できた」

<皆様からの主なご意見>

- ① グラデーション・ポジティブ、センター・オブ・ヒューマニティともに
価値観になり、方向性になりうると思った
- ② キャッチーな横文字が多すぎるのでは
- ③ 現代感は醸し出せるが、理解されにくいのでは



<最終案>

- ① 位置付けを見直し。概念図を追加(心構えを示すハート)
価値観→ビジョン実現のために大切にしたい二つこと(心構え)
- ② フレーズ自体はそのまま(方向性のフレーズを変更)
- ③ 分かりやすくするため、例え話を追加

(最終案 P.25、26 参照)

○ 方向性 <中間案>

センター・オブ・ヒューマニティ Center of Humanity

このエリアでは、人の感情、人間性、ひととなりを意味する「ヒューマニティ」を中心に置いてエリアづくりをします。

例えば、ベンチ、バス停のサイン、お手洗いを設ける時、単に使えれば大丈夫ということではなく、使うひと一人ひとりの表情や感情を想像し、快適さや安心感を感じられるかどうかを検討します。

テナントやイベントを企画運営する時、利益率や動員数を考慮することは必要ですが、参加するひと一人ひとりの表情や感情を想像し、楽しくなったり喜んだり豊かな気持ちになれるかどうかを検討します。

ヒューマニティを想像してエリアをつくるからこそあらゆるひとがゆたかに過ごせる。

ゆたかに過ごせる余裕が生まれることでエリアの雰囲気良くなり、周りのひとへの配慮ある振る舞いが引き出されると考えます。

「ヒューマニティ」を中心に置いたエリアづくりによってこのエリアを、ヒューマニティが生まれ集まる場所、「センター・オブ・ヒューマニティ」にすることを目指します。

イメージ図（予定）

<アンケート結果>

- ・73%が「理解できた、概ね理解できた」

<皆様からの主なご意見>

- ① グラデーション・ポジティブ、センター・オブ・ヒューマニティともに価値観になり、方向性になりうと思った
- ② 人の感情や人間性を中心に据えたエリアづくりという意図が明確に伝わった。特に、ベンチやサインなどの具体例を挙げながら、使う人の表情や感情を想像し、快適さや安心感を考慮するという説明は、非常に具体的で理解しやすい
- ③ 自分なりに理解できたつもりだが、メンバーが共通のイメージを持てるよう、具体のイメージに関する議論がもう少しできれば、フレーズに込めた意味合いや思いをシャープに共有できると思う



<最終案>

- ① 位置付けを見直し。概念図を追加(考え方を示すコンパス)
方向性→ビジョン実現のために大切にしたい二つこと(考え方)

- ② より伝わりやすくするため、フレーズを変更
センター・オブ・ヒューマニティ

→ヒューマニティを大切にする考え方

※ センター・オブ・ヒューマニティは、ビジョンを示すフレーズとして活用

(最終案 P.25、27 参照)



<来年度の取組み(ビジョン実現に向けて)>

- ③ 様々な人とヒューマニティを言語化。イメージを共有

<ビジョン>

A) 多元的価値をいかしあい あらゆるゆたかさと仙台への愛着の 起点となるエリアをつくる

B) 多元的価値をいかしあい あらゆるゆたかさと 仙台への愛着に満ちたエリアをつくる

※A案・B案の2つの文案を作成。

このエリアのオリジナリティでもある「起点」を踏まえ、

A案を提案

青葉通仙台駅前エリアは、まちなかに繋がる青葉通にあり、
仙台駅と隣接し、様々な商業施設と公共空間が共存しているため、
県内外からあらゆるひとがそれぞれの目的で集まっています。

様々なひと、交通網、商業施設、公共空間といった
要素の異なる価値が共存している特性から、
このエリアは多元的価値のあるエリアといえます。

様々な価値と一緒に共存している多元的価値をいかしあうことで、
交通利便性、経済や文化のゆたかさを高めると共に、
このエリアでの過ごし方のゆたかさを
生み出していくことができると考えます。

そうすることで、エリアへの愛着が生まれ、
さらには、仙台という街への愛着へとひろげていく
起点となるようなエリアをつくっていきます。

イメージ図（予定）

<アンケート結果>

- ・93%が「理解できた、概ね理解できた」

<皆様からの主なご意見>

- ・仙台の玄関口としての重要性や、様々な都市機能が共存する特性を的確に捉えており、非常に分かりやすく理解できた



<最終案>

- ・ ひと言で言えるフレーズを追加
→センター・オブ・ヒューマニティ

(委員意見)

- ・センターは中心と捉える。このエリアだけがヒューマニティを基により良いエリアになるのではなく、「フロント」として広がりの起点になるべきである。

→表現はそのまま

中心であり、起点として広がっていくことを伝える

概念図、説明文としています

(最終案 P.28、29 参照)

<最終案に掲載するイラスト>

- ・エリアにヒューマニティが生まれる光景をイラスト、文章にて示しました

(最終案 P.30～33 参照)

<その他皆様からの主なご意見>

- ・未来ビジョン策定で終わりではなく、行政と民間が一体となり本気でこのエリアを実際に発展させていかなければならないと考える



<最終案>

- ・ 来年度以降は、ビジョン実現に向けた取組みを行います

(最終案 P.34、35 参照)

未来ビジョン策定後

<本日の協議会>

- ・未来ビジョンの策定
- ・委員の皆様からいただいたご意見は、座長と事務局で協議のうえ、取りまとめを行います

<～4月中旬>

- ・本日の意見交換での皆様のご意見の反映、レイアウトの微修正、誤字脱字の確認のうえ、校正完了
- ・委員の皆様に校正完了のご報告と確定した未来ビジョンをデータにて共有

<5月中旬>

- ・未来ビジョン冊子完成。委員の皆様、関係者の方、市民の方など広く配布します

<6月下旬>

- ・第11回協議会を開催。令和7年度の取組について、ご報告します

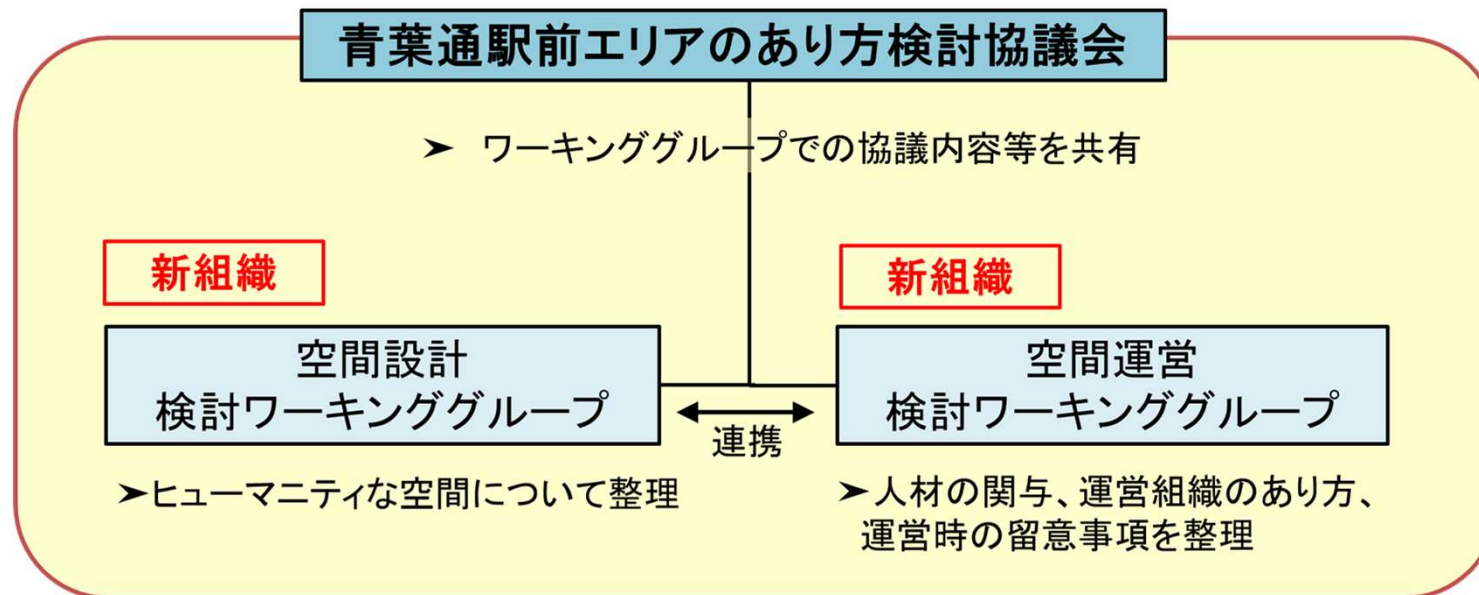
<令和7年度の取組の方向性>

- ① 未来ビジョンの実現に向けた「空間・仕組み・つながり」づくりの検討
- ② エリアプロモーション

<協議会の体制>

- ・整備方針は仙台市にて策定しますが、意見交換の場を設けるため、今後も存続します
- ・空間設計検討WG、空間運営検討WGを設置
- ・メンバーは調整中。委員の一部＋委員以外の方で構成する予定です

<協議会の体制図>



<2つのワーキンググループは密接に連携>

整備された空間を持続的に活用するには、運営面の理解、取り組みが必要不可欠であるため